

「光」という言葉には、希望や導きを象徴する力があります。光が暗闇を照らすように、私たちが持つ善意や正義も周囲を照らし、人々の心を明るくします。善意は、他人に対して思いやりや助けを提供することであり、正義は、公平であること、そして真実は、正直であることを意味します。この聖句は、私たちが日常生活の中でどのように行動すべきかを教えてくれています。学校や家、そして友達との関係において、私たちはいつも善意と正義、そして真実を大切にしなければなりません。そうすることで、私たち自身も成長し、周囲の人々にも良い影響を与えることができるのです。

この聖句を皆さんに紹介するにあたって、私は「白圭珪尚可磨（はっけいなおみがくべし）」という禅の言葉を思い浮かべました。この言葉は、礼法の授業の掛け軸で紹介されたもので、皆さんの心にも残っているのではないのでしょうか？白圭とは、傷ひとつない美しい白い玉のことを指しますが、その玉も磨き続けることでさらに輝きを増すのです。

この言葉は、禅の修行には終わりがなく、悟ったと思ってもさらに修行を続けるべきだという教えを伝えています。高校生活の中で、皆さんは日々の経験や生活の積み重ねを通じて、自分を磨き、「光の子」として成長しています。「光からあらゆる善意と正義と真実とが生じるのです」とあるように、光の子として歩むことで、皆さんはこの善意と正義と真実をもたらし存在となるのです。しかし、聖霊学園高校を卒業することで終わりではありません。むしろ、新たな始まりです。1月から始まったクラウドファンディングにたくさんの方々からご支援をいただき、温かいメッセージも添えられています。皆さんの存在はもちろんですが、本校を巣立った光の子がそれぞれの場所で輝いているからなのではないかと私は思っています。

3年生の皆さん、卒業してからも、この「光の子としてあゆみなさい」という言葉を心の片隅に刻み、多くの経験を通して自分磨きを続けてください。そして、自分自身を輝かせるだけでなく、周囲を照らす存在でいてください。皆さんがこれからも、自分を磨き続け、光り輝く未来を歩んでいけることを願っています。

「光の子として歩みなさい。光から、あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。」

エフェソの信徒への手紙 5章8－9節